

**新機能追加で充実のパワーアップ!** 河川砂防情報ステーション

**長野県河川砂防情報ステーション**

**Webサイト全面リニューアル**

トップ画面で4つの防災情報が一目でわかるようになりました。マップ画面がさらに見やすくなり、雨量ランキンなど新たなコンテンツも充実しました。

**リニューアルPoint**  
✓8つの言語に対応

**マップ新機能Point**  
✓スネークラインが地図上で最大3つ表示可能

**パソコン版サイトが見やすくなりリニューアル**

**スマート機能が充実**

PC版と同様の内容がスマホでも見られるようになりました。マップでの防災情報に加え、雨量/水位/ダムの状況を表やグラフで確認できます。

**スマート機能Point**  
✓GPSで現在地の状況を簡単にチェック

**キキクルレベル5に対応**

大雨による災害発生の危険度の高まりを地図上で確認できる「危険度分布」通称「キキクル」のレベル5対応に伴い、災害切迫を追加しました。

**危険なエリア、避難場所をチェックできる! 雨が降る前にチェック**

**ハザードマップポータルサイトの使い方**

国土交通省が運営する「ハザードマップポータルサイト」。雨が降る前に事前に確認できるから、万が一に備えることができます。洪水の他にも土砂災害や地震防災・危険度マップ情報も見ることができます。

1 右下のQRコードを読み込んでサイトが開いたら下へスクロール。「わがまちハザードマップ」でお住まいのまちを選んで検索。  
ハザードマップポータルサイト

2 洪水ハザードマップの公開中リンクをタップ。  
長野市の例

3 市町村のページを下へスクロールし、お住まいの地区的PDFをタップ。  
市町村  
浸水を想定した区域図をもとに、市町村は「洪水ハザードマップ」などを作成します。

住民のみなさん  
住民の皆さん、ハザードマップを活用し、避難など正しい行動につなげましょう

**「逃げ遅れゼロ」に向けた取組!** 信州防災アプリ

「信州防災アプリ」の紹介(画面上)

災害からの「逃げ遅れ」を出さないためには、「自らの命は自らが守る」という意識をもって、行動をとることが大切です。災害時にどのような避難行動をとればよいかを整理した「私の避難計画」(マイ・タイムライン)の作成や、スマートフォンの位置情報に応じて避難情報をお知らせする機能を有する「信州防災アプリ」を配信中です。ぜひご活用ください。

「私の避難計画」を作成!  
避難情報を通知でお知らせ!

Android iOS



考えよう、あなたと家族の大切な命を守るために

**長野県建設部河川課・長野県河川協会**

〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幡下692-2 TEL.026-235-7310

このマークが「流域治水プロジェクト」の目印です。



## 水害に備え、今、私たちができること。

ここ数年、前例のない豪雨が多くの被害をもたらしています。だから今、水害リスクに備えるために「皆が力を合わせ豪雨に備える」ことが必要です。水害は怖い、でもそのために私たちが「できること」はたくさんある。「雨に負けない信州」を目指して、力を合わせて。



## 私たちができる雨水対策

### 貯水タンクの設置(雨水貯留施設)

雨水の貯留や透水性舗装の整備等により、降雨が一気に河川や水路に流入することを抑制します。これにより、河川や水路の流量の増加を抑え、浸水被害を軽減し洪水緩和の役割も担っています。市町村によっては設置に補助金があります。



各家庭で出来る雨水貯留のイメージ



各戸貯留の取組(松川町)



補助金制度の案内(松川町)

### 貯水タンクのメリット

屋根に降った雨を貯水タンクに一時的に貯めることで、水路や側溝などに一举に流れ出る水の量を減らすことができ、浸水被害の軽減につながります。長野県内の全戸に雨水タンクが設置されると、1億6700万リットルの雨水が貯水できます。これは25mプール約280杯分に相当します。

※タンク200リットル・世帯数83万5000世帯・25mプール(25m×16m×1.5m)で算出しています。



植物への散水



洗車



災害時用水

#### その他の メリット

- 植物の水やりに使うなど水道代を節約
- 断水時の雑用水として活用(トイレ排水など)

### 補助金の対象と金額

市町村によっては、雨水タンクの購入に補助制度がある場合があります。詳しくはお住まいの市町村窓口にて確認をお願いします。例えば、長野市の場合、100～500リットルのタンクを購入するとき、購入費用の2分の1、上限25,000円が補助されます。



## 「気候変動」により災害リスクが増加しています!

近年、気候変動による豪雨が増加し、全国各地で水害が激甚化、頻発化しています。

- 豪雨(時間50mm以上の降雨)の発生件数が30年前の約1.4倍に増加
- 将来の気温上昇を2°Cとした場合、21世紀末には全国平均で降雨量は1.1倍、洪水発生頻度は2倍となる。

### 「流域治水」とは。

これまでの水害対策は、河川の管理者が主体となって行われてきました。しかし、激甚化する水害リスクに備えるためには、企業や住民など、あらゆる関係者が流域全体で水害に強い地域づくりを行う必要があります。それが、「流域治水」の考え方です。



国土交通省資料より

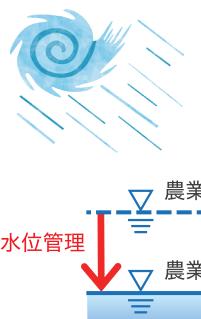
## 期待される雨水貯留の取組

### ため池を活用した雨水貯留

ため池は、かんがいのために水をためていますが、水位を下げて空き容量を確保することにより、降雨時の流入水を一時的に貯留させ、河川への流出量を減らすことができます。



浅川大池



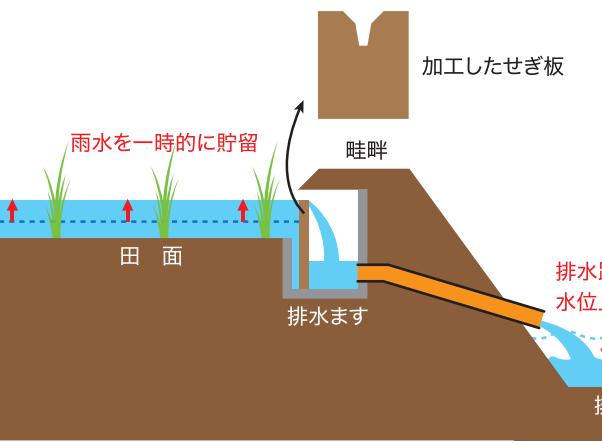
#### どうやって雨水をためるの?

農業用水としての利用が少ない時期(8月下旬～10月下旬)に、水位を下げて管理します。また、大雨が予想される際に、あらかじめ水位を下げておくことも効果が期待できます。

※営農に影響しない範囲で取り組みます。

### 水田を活用した雨水貯留(田んぼダム)

水田には、大雨の際、雨水を一時的にためて、水路のピーク時の流量を減らす働きがあります。



#### どうやって雨水をためるの?

水田の排水までは、切り込みを入れた板や小さい孔を開いた板などを設置し、雨水を少しづつ排水路に流します。

※水路の水を、水田に引き込んでためるものではありません。



写真提供:新潟市(白根郷地区の取組状況)